

学校規模等適正化に関する説明会（明倫小学校）における質疑回答

1. 日 時 平成 28 年 7 月 5 日（火） 午後 7 時から午後 9 時まで
2. 場 所 明倫小学校 体育館（参加者 62 名）
3. 事務局 管理部：俣野参事、益田参事、兼瀬課長、北村主幹、松尾代理、田中主任、廣瀬
4. 内 容

（質問 1）

児童生徒数の将来推計には、合計特殊出生率（1 人の女性が生涯で産む子どもの平均数）が含まれているのか。また、人口が減ることに対して、今まで市は無策であった。今後市としてどのような人口誘導策を行っていくのか。

（回答 1）

合計特殊出生率は、児童生徒数の将来推計を算出するうえで重要な要素の一つです。

また、人口誘導策については、「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するとともに、本年度から新たな検討委員会を立ち上げ、様々な視点から検討を始めたところであり、学校規模等の適正化による施策だけを進めていく訳ではありません。

（質問 2）

学校は地域の大きな財産であり、避難所や学校開放により地域の団体も有効に活用している。統合後、学校がなくなれば、若い世代の人達が当該地域に来なくなる。小規模校と言えメリットはたくさんあると思うので、拙速に物事を進めないで欲しい。

（回答 2）

避難所の在り方については、跡地活用に関わる課題でありますので、皆様のご意見等をお聞きしながら、全庁的な取り組みとして検討してまいります。

また、拙速に物事を進めるのではなく、例えば、UR 敷地における開発等も想定されるため、今後の児童数の推移を引き続き見定めたいうえで取り組んでまいります。

（質問 3）

統合すると学校開放の施設が使えなくなるとともに、区域が広がると子どもや高齢者にとって学校までの距離が遠くなり利用しにくくなる。また安全面からも不安である。小規模校のデメリット解消対策のひとつとして、例えば、他校と一緒に行事を行うなどの工夫をしながら、地域を活性化できる方法もあるのでは。

（回答 3）

学校は地域の拠点であり、避難所や学校開放も行われています。学校の跡地活用については、皆様方のご意見等をお聞きしながら、さまざまな視点から全庁的な課題として検討を進めてまいります。また、小規模校のデメリットの解消対策につきまして、今、ご提案いただきました点も貴重なご意見として、今後の方針の策定の際の参考にさせていただきますと考えています。

(質問4)

「児童生徒数の今後の推移を見定めて」とは具体的にはどういうことか。

(回答4)

明倫小学校の児童生徒数の推移については、平成40年度には、一旦適正規模に戻ると予測されています。さらに、校区内に新規の住宅開発が予定されているなど、状況が変化する(児童数が増える)可能性もあります。また、答申の「おわりに」にも示されていますように今後、児童数の推移などに予測を超える事態が生じた場合には、教育委員会として適切に対応していく必要があるものと考えています。

(質問5)

明倫小が中宮小へ分離開校した時、強引なやり方でされた印象をもっている。市は当時の状況を把握しているのか。

(回答5)

昭和47年に中宮小に分離開校した当時の状況については、把握できていない部分もありますが、今後の取り組みの課題といたします。

(質問6)

答申では、文化環境や歴史的な文化遺産(特別史跡)を視점에検討したのか。

(回答6)

校区には文化遺産等があり、校舎は明倫小独自のものであることも承知しております。今後は、皆様のご意見をお聞きしながら、跡地の利活用についても検討させていただきたいと考えています。

(質問7)

かつて、“子育てするなら枚方で”、と言われていたのは遠い過去のことか。これまでの施策を反省して欲しい。

(回答7)

少子化問題については、市長も最優先課題と考えており、現在、全庁的な取り組みとして、様々な視点から検討を進めているところです。また、幼保一元化など子育て支援についても、引き続き行っていく必要があるものと考えています。

(質問8)

小規模校の良さも十分あるのに、単純に統合するという考え方はやめて欲しい。まずは大規模校のデメリットから解消すべきではないか。

(回答8)

枚方市の学級数編制基準としては、1年生から4年生までを35人学級として、きめ細かな対応をしていますが、学年1学級ではクラス替えができずに困っているという意見が現場から聞こえています。審議会では、ある一定規模の集団の中でこそ、新しい人間関係を築くことができ、子どもたちにさまざまな力を身につけることが可能になるものと考えています。

(質問 9)

通学距離が遠すぎるのではないか。また、クラス替えがあればいじめがなくなる、1クラスだからいじめがある、という考え方はどうなのか。

(回答 9)

通学距離については、他校区の児童は同等の距離で通学している現状があります。また、クラス替えを行い、一定規模の集団の中において、子供同士で身につける力があるものと考えています。

(意見 1)

給食費が値上がりしてサービスの低下を心配している。また、明倫は地域のつながりがとても良い。簡単に統合ではなく、もっと知恵を使って施策を出して欲しい。

(意見 2)

地域の子育てを支援しているが、子ども達の顔が見える子育てが大切。集団は多くなると駄目だと思う。校区も広くなると子ども達に目が届きにくくなってしまうので、統合はしないで欲しい。

(意見 3)

明倫小は枚方市初のオープンスクールであり、モデル校であったのに、児童数が減ったから学校をなくしてしまうという方策は納得できない。小規模校のデメリットは違うのではないかと感じる。クラス替えができれば問題は解消できるというのは疑問である。統合ありきで議論が進んでいるように感じる。

(意見 4)

統合したら留守家庭児童会室は全ての児童を収容できるようにしてほしい。

(意見 5)

親子で卒業したこんなすばらしい学校はないと思っている。答申から統合の対象校として消去して欲しい。

(意見 6)

中宮小で学年5クラスの経験があるが、人数が多いと友達の名前や顔を覚えていない。逆に明倫小では、児童だけでなく、親の名前や顔もお互いに覚えることができる。また、宮之阪3丁目で浸水被害があった時に地域の助けあいがあった。それを考えると適正化って何だろうと考えてしまう。

(質問 10)

平成40年度までは、統合されないという答申の内容でいいのか。

(回答 10)

学校統合に関しましては、校区内の住宅開発などの状況や児童数の推移を見定めて判断していきたいと考えていますが、予測を超える事態が生じた場合は、教育委員会において、適切に対応する必要があります。